

論文審査の要旨

報告番号	乙 第 2972 号	氏 名	世良田 紀幸
論文審査担当者	主査	泉崎 雅彦 教授	
	副査	小風 暁 教授	
	副査	内田 直樹 教授	
(論文審査の要旨)			
<p>手術や外傷に伴うギプス固定後に可動域の制限、痛みなどが生じやすいことが知られている。近年、漢方薬の 1 つである抑肝散に頭痛や神経障害性疼痛などを抑制する作用があることが報告された。世良田らはギプス固定後の可動域制限や疼痛閾値低下に対する抑肝散の効果について検討した。ラットの後肢足関節をギプス固定し、14 日後の関節可動域、機械的痛覚閾値、熱痛覚閾値の変化を抑肝散投与群、神経障害性疼痛治療薬 pregabalin 投与群、非麻薬性鎮痛薬 pentazocine 投与群とで比較した。その結果、関節可動域制限に対しては各薬物による変化は見られなかったが、痛覚閾値低下に対してはいずれも有意な低下率減少を示した。また、pregabalin や pentazocine 投与で認めた緩慢な動作やふらつきは抑肝散投与群では認めなかった。</p> <p>以上の結果から、世良田らはギプス固定後の疼痛に対する抑肝散の有効性を示唆した。本論文には新知見があり、学位論文に相応しいと判断した。</p>			
論文題名： 足関節固定モデルラットの痛覚過敏に対する抑肝散の効果			
掲載雑誌名： 薬理と治療 Vol. 44, No. 9 2016 年 掲載			





